

目次

	ページ
1, はじめに	1
2, 庭園の噴水	1
3, パサルガダエ宮殿、紀元前6世紀頃	1
4, ハドリアヌス帝(西暦76～137)の別荘	2
5, イスラムサラセン庭園	3
6, エラム庭園 13世紀	4
7, アルハンブラ宮殿 13世紀	4
8, イタリア式庭園とエステ家の別荘 16世紀	6
9, フィーン庭園などチェヘル・ソトーン庭園博物館	9
10, ヴォー・ル・ヴィコント庭園 17世紀	10
11, ヴェルサイユ宮殿庭園 17世紀	11
12, ペテルゴフ(夏の離宮) 18世紀	14
13, 英国式風景庭園 18世紀	16
14, ニンフェンブルグ城庭園 18-19世紀	18
15, 多様な水景	19
16, 終わりに	21

水道公論に2018年まで3回にわたって掲載されたものを編集

ヴェルサイユ宮殿 アポロンの泉水、アポロンの彫像

ルイ14世は自分を太陽神アポロンに見たてていた







発掘が進み、遺跡がよく残されているペルセポリス宮殿は神殿のような儀式のためのものだったようで、想像図では宮殿は建物が密に配置され、庭園は殆どなく、縦横線は皆同



パサルガダエ遺跡  
広大な原野に遺跡が散在



宮殿跡の広大な原野に走る水路跡 パサルガダエ  
想像図では通路沿いに庭園水路が走っていて  
これらしい。

じ方向と整然としている。現地では案内がなかったのを見学できるかどうか分からないがガイドブックによると建物の背後の斜面からの雨水を流すための暗渠や、厚い壁の中を煙道のように通っている瀝青が塗布された泥レンガの雨水排水管など、宮殿の雨水による食を防ぐ排水システムは、驚くほど計画的にしっかり作られている。泥レンガを多く使っていたためだろうか。



ペルセポリス宮殿全景  
右上が玄関付近の広場



池から延びる水路 ペルセポリス  
宮殿の玄関近くの広場。直線部と曲線部がある。

庭園はごく狭い区域であり、景観のための浅い水路の存在ははっきりしない。宮殿へ入る大きな階段を上ったところにある玄関建物近くに儀式用だったと思われる水槽があり、その横の少し広い敷地に、もともとあったかどうか分からないが直線と曲線の線形の水路跡があった。水槽と水路はつながっていないようでそこもよく分からないところである。

もっと古い庭園としてバビロンの空中庭園が知られている。大規模な灌漑用水路を引き込んだ階段状の庭園で、紀元前7世紀頃ティグリス川のほとりにつくられたという説があるが、遺構もはっきりしていない。

ペルシャ式庭園は水を重要視するゾロアスター教の影響を受け、四分庭園（チャハルバグ Charbagh）という形式や fountain の採用に進んだ。四分庭園は方形の池に四方からせせらぎが流れ込む形式で、。イスラム教が広まった7世紀以降も乾燥地帯で水に対する希求が強いこともあるだろうがこの流れが引き継がれている。

イラン国内の9個の庭園が、「ペルシャ式庭園」という形で、2011年、世界遺産に登録されている。ペルシャ庭園には四分庭園でない様式のものもある。

#### 4. ハドリアヌス帝(西暦76~137)の別荘

ローマ時代の庭園で現在見ることができるとしてティヴォリ近くのハドリアヌス帝の別荘がある。ローマの東30kmのところにティヴォリの丘があって、ここはかつてローマ

時代に皇帝や貴族の別荘があった古い街である。

ティヴォリには2013年に噴水で有名なエステ家の別荘の取材でかけた。水辺の写真撮影では必須となる晴の日に行けるよう日程を3日取ったので、時間的に余裕ができ、近くのハドリアヌス帝(西暦76~137)の別荘まで行くことができた。ここはバスで15分くらいのティヴォリの丘を降りた先にある。乗車するバスの行き先と停留所をよく聞いて、降りるバス停をグーグル地図で確認して出かけた。帰りのバスは、別荘出口の売店のおばさんに確認したら、前に聞いていたのとバス停の場所も、時間も違っていたが、無事ティヴォリの旧市街まで戻ることができた。ハドリアヌス帝の別荘といっても面積1.2km<sup>2</sup>と広く、そのうち0.4km<sup>2</sup>に遺跡が広がっている。一つの街ほどもあり、多数の施設がある。

別荘はハドリアヌス皇帝がローマ帝国を旅して見た、建物や景観を再現したものとして、工事を監督指示するため住まいをローマから移し、またローマに至る水道橋から水を分水して、浴場や fountain の水源にした。その後皇帝の公邸になったらしい。浴場跡は3箇所もある。

水景が目立つものが二つある。一つはカノープスで、エジプトのアレクサンドリアからカノープスまでの運河を模したものとして作られている。カノープスはシリウスに次いで全天で2番目に明るい恒星の名前でもある。長さ1200mの細長い池の片側のへりには2列の列柱が並び、四阿を支えたとされ、もう片側では女神の像が列をなして置かれていて、典型的な西洋庭園池と変わらない景観を見せている。半円の円形神殿の両端には建物があり、一方は泉の神の神殿で半円柱の上に球面の屋根が載っている。後の欧州庭園に多い洞窟状の装飾であるグロットの先駆けのようである。fountain もあったとされる。

もう一つ目立つのが海の劇場と呼ばれる建物で、建物の中に円形柱廊があり、その内側の円形建物を隔てる濠のような池がある。池には2箇所橋が架かっていた。建物のすぐそばには図書館と浴場があり、中の丸い建物には寝室と思われる部屋やトイレまであった。どうも皇帝が一人で静かに過ごすための部屋であったらしい。

ローマ時代にヴェルジネ水道の終端施設としてつくられたトレヴィの泉 Trevi Fountain はその後18世紀に今の形になった。至る所から水がわき出しているが滝流れが主である。

## 5. イスラムサラセン庭園

西暦610年頃に、唯一神の啓示を受けたとするムハンマドが、メッカ付近からイスラム教を始めた。ムハンマドは従って生まれたイスラム帝国は中央アジアやインドからイラン半島まで勢力を広げた。その中でペルシャ庭園に由来すると思われるイスラムサラセン式庭園が生まれた。

サラセン式庭園は、建物や壁で囲まれたパティオと呼ばれる小空間の中庭を発達させた庭園で、中央に池や fountain、水路を配し、色彩豊かな色タイルの床、美しい花壇などが特徴とされる。中央に噴水や池が設けられ、それぞれ、鉢植えなどにして置かれた樹々とともに、場所に清涼感を与えている。

ただ、中庭を建物が取り囲む形式は大昔からあるもので、紀元前1世紀頃まで栄えたギリシャのディオロス島の多くの個人邸宅もモザイク模様など凝った中庭を、円柱を持つ建物が取り囲むこの形式であった。

サラセン式庭園はタージマホール(1632年着工、1653年竣工と推定されている)やアラブ宮殿(主として13世紀~14世紀に造営)にまでその流れが続いている。また西欧のイタリアやフランスの幾何学庭園にも大きな影響を及ぼしているようである。ただ代表する庭園がイスラム圏の東と西の果ての場所であるし、7世紀から13世紀ま



カノープス 典型的な西洋庭園の池に見える



カノープス 奥に泉の神の神殿



海の劇場  
円形柱廊と丸い建物の間に水路



での間に造営された名庭園がないようで空白の感がある。

この間の主要な変化は、  
750年、アッバース朝成立（～1258）、ウマイヤ朝滅亡  
1099年、十字軍がエルサレムを占領し、エルサレム王国建設（～1291）  
1258年、モンゴルのフラグがバグダードを占領し  
イル・ハン国成立（～1353、）アッバース朝滅亡

サラセン式庭園最古の宮殿庭園がシリアに、  
その次がイラクにあるそうであるが、情報が乏しく、よく分からない。

タージマハールでは入り口の大きな門をくぐった先に広がる庭園で中央の四角の池と四方の水路が配置され、四つに分れる庭園の中央の池は大きな中島があり、1mの高さの通路が8本の階段で台の上にある。遠く離れたタージマハールとアルハンブラに共通しているのは大きな池である。特に大きな建物があって、階段で台の上にある。遠く離れたタージマハールとアルハンブラに共通しているのは大きな池である。特に大きな建物があって、階段で台の上にある。



住宅の中庭  
ディロス島 床がモザイクに

タージマハールとアルハンブラに共通しているのは大きな池である。特に大きな建物があって、階段で台の上にある。遠く離れたタージマハールとアルハンブラに共通しているのは大きな池である。特に大きな建物があって、階段で台の上にある。

### 6, エラム庭園 13世紀

エラム庭園 (Bagh-e Eram) は、イランのシーラーズ近郊にあり、11世紀頃今の配置になったようであるが、宮殿や庭園は13世紀頃整備された。軸線は南東方向。緩い傾斜地な宮殿の前には大きな池があり、そこから水路が続いている。軸線は南東方向。緩い傾斜地な池から長く延びる水路の設計は後にイタリヤやフランス庭園の先駆けのようである。宮殿の裏側の北西側には直線的な水路があるが、四分庭園からは離れているようである。ここには大きなバラ園もある。



エラム宮殿と池



池から延びる水路 浅い流れ エラム庭園

### 7, アルハンブラ宮殿 13世紀

グラナダにあるアルハンブラは構造的には一つの城塞都市であるが、当初から全体の形が計画されておらず、13世紀～14世紀までの異なる時代に建てられた様々な建物が複合体であり、時代により、建築様式や形状などが異なっている。大きな変貌を遂げるのは、ナスル朝の黄金時代に、築いたユースフ1世とその息子のムハンマド5世で、1359年ムハンマド5世が没したまでであった。

アルハンブラの城壁は細長く、長さ7百メートル、幅が最大2百メートルで、この中に王宮だけでなく、住宅、官庁、兵舎、モスク、学校、墓地などがあり、人口約2千人の小都市のようなものであった。この外側に北の対岸のアルバイシン地区から、南の低地まで囲う長大な城壁もあった。イスラム勢力がイベリア半島を席卷したのは8世紀であるが、今に残る宮殿を築いたナスル朝がはじまったのはキリスト教徒の反撃が強まった13世紀後半であった。宮殿は何か寂しげな雰囲気を持つ。滅び行く運命を悟りつつ何か後生を残すものという覚悟で宮殿建設に取り組んだのであろうか。グラナダは1492年に陥落した。

宮殿の中は複雑である。パティオと思われる池もいくつもある。グラナダ陥落後キリス

ト教徒によって様々に改築されたりして、昔の姿の復元は難しいようである。

○アラヤネスの中庭 コマレス宮

パティオ形式で細長い池を建物が囲み、柱廊の北側はコマレスの塔が建ち、城塞の外かと思える。この池はひときわ大きく防衛の要のようなものであるが、内部は戦闘ができるようになっている。池の北と南には水盆があり、中に噴水が一つある。この噴水付きの水盆がアルハンブラの特長の一つである。水を上に噴き上げる噴水としては、現存する世界最古のものではないだろうか。

噴水の水は水盆の前につきだした石の樋から段差なしで池に流れ込むようにしてあり、樋の段差で波が立たないようにする。水鏡の景観を大事にするため、池の周囲は細い水路がぐるぐる配慮の深さを感じさせ、水景に対する配慮の深さを感じさせる。

○ライオンの中庭

四分庭園の設計で、中央に12角形の池があり、その中に12頭のライオンが並ぶ。その噴水を12の水盆が支えている。丁度修繕中だったので、中央の池は写し取れなかった。点検の間、建物の中に入ったか、建物の中に水盆があり、流れる途中にもう一つ水盆が設置されていた。



アラヤネスの中庭 池の両端に噴水のある水盆



ライオンの中庭 建物の中の水盆からせせらぎが延びている



ライオンの中庭 まわりの建物の柱廊の柱下部は大変細い

○パルタル

北の城壁にある貴婦人の塔の南に広がる段々の庭園である。宮殿建物のパティオだったと思われ、池が多い。貴婦人の塔は細い柱で構成される5連アーチ、装飾など見事で美しい姿をしていて、2階は展望室になっている。対岸のアルバイシン地区の景観が楽しめる。貴婦人の塔の前には大きな池で水鏡の役割を果たしている。貴婦人の塔の前には水盆があるが、対岸の水盆がない。ここでは水の流れが上の池から続いていて、面白いところである。池の中心線に沿って階段が上まで伸びている。

通路になっている上段の上にもまた段があり、そこにはく字をした池が対称形で配置されている。その真ん中に噴水盆があり、溝が下の池の方に向いて落ちて、この溝の池の水の入り口が一直線上にある。階段も水の流れも今はつながっていない。



貴婦人の塔の前の池



ないが、昔は溝が階段の中心を流れていたのではないかと考えられる。また上の池と下の池の間に段があって結構広いスペースがあり、昔はそこにも池があったような気がする。さらに、上の池の丘側に建物があって、貴婦人の塔の水鏡が見えるようになっていたのではないかと想像される。



くの字の対称形の池 水盆からの水路が貴婦人の塔の池まで直線的につながっているよう

池と溝を持つ階段を一直線に持つ設計を、近くに見ることができる。上の池から貴婦人の塔に至る軸線の西隣に、上の階段ー池ー下の階段という配置があり、上の段に行く通路になっている。

上には階段室があり、そこから水が流れ出て池の段に降りる階段中央を流れ、池に入り、池の反対側から流れ出し、下の階段中央を流れていく。今は池だけであるが昔は池を挟んで建物があったと思われる。階段に溝をつくって水を流す設計は楽しい。現代の日本建築でも階段や通路と水路を近づける設計が増えているがこの原点と考える。対称形の池の上段にも庭があり、いくつかの池がある。この辺はユースフ3世の宮殿があったところで今は池と礎石らしいものが残っているだけで寂しい。パルタルの庭園は貴婦人の塔から東に細く長く広がり、ヘネラリーフェに至



水路が階段、池、下の階段と一直線



左の写真の中間の池



ユースフ3世の宮殿があったところの池

る散歩道を形成している。本宮殿から少し上流にある離れのような宮殿ヘネラリーフェは上流から引いてきた水路が通っているところで、パティオ形式の見事な水景があるが、階段手摺りの上に水が流れている工夫をしているところがある。

## 8. イタリア式庭園とエステ家の別荘

16世紀

イタリア式庭園は、15世紀から16世紀にかけて主にイタリア郊外の別荘（ヴィラ）で発達した庭園とされる。幾何学式庭園で、丘の中腹に配される隠れ家のような敷地の立地条件、数段のテラスでの構成、

上段テラス中央に建物を配して軸線を設定し、左右対称の構成をとる、多くの人工物を配して訪れる人々を楽しませる、庭園の内部から周囲の風景を眺めパノラマ景を楽しむ、などを特徴とし、ルネサンス以来多くの庭園が造営された。

この時期最も有名なのがエステ家の別荘（Villa d'Este）で、枢機卿であったイッポリト2世 Ippolito（1509-72）がつくった、前例のない規模の噴水やカスケード（滝流れ）を持つ庭園である。1560年頃から形ができあがりだした。イッポリトは芸術が大好きで、多数の様々な芸術家を気前よく支援したが、その一人に建築家のピーロ・リゴーリオがいた。

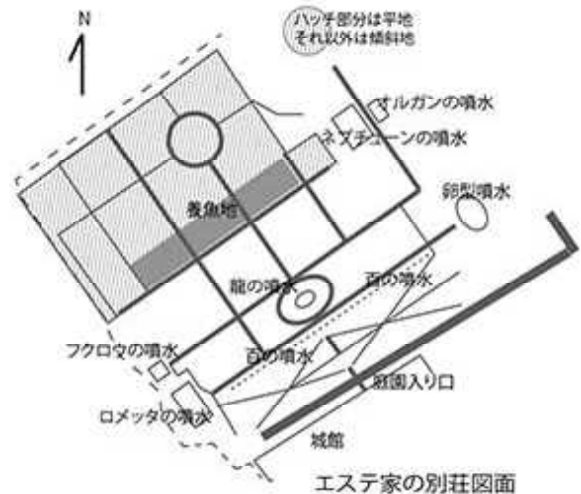
当時、古代の資産はまだ調査が進んでいなかった。ピーロ・リゴーリオは正式な考古学

者として研究や探索をはじめ、建築探索のための発掘、測量、いろいろな建物の記述、地形的、形態学的分析なども行った。膨大な仕事は名著として残され、これが別荘建設の背景となった。またイッポリトに壮大で革新的で、建設中の法王宮殿より素晴らしい噴水庭をつくる提言をしている。

ティヴォリ知事となったイッポリトはティヴォリの傾斜地にあった公邸をハドリアヌス帝別荘に劣らないような宮殿に改造することにした。ハドリアヌス帝別荘は丘の下の広大な敷地に様々な建造物があり、カノープスの池、通称海の劇場など水景もきれいに保存されている。



エステ家別荘庭園からの眺め ローマ方向。ティヴォリの丘の高さが分かる



エステ家の別荘図面

幸いティヴォリの丘は河川の水位が高く、地形的に噴水庭園に適していた。バスで行くと丘の下から坂道を相当長い距離登って街に到着する。この地形は travertine (石灰華) と呼ばれるアニエネ川の石灰分が沈積したものであった。溪谷の出口で河川中の石灰が沈積して畦石 (リムストーン) がダムのできる堰堤を次第に高くしていくよう形成されていったので川の水位が高いという特異な地形が生まれたらしい。長期にわたり石灰質が堆積していったこと



楕円噴水

噴水の出ている壁の裏側が回廊に

から、地下には多数の空洞や鍾乳洞のようなものができている。水路トンネルも複数掘られている。

現在、水位が高いことを利用して、アニエネ川の水を導水した落差約百メートルもの人工の滝が設置されている。

しかし、石灰分が析出するというアニエネ川の水質は、後世、噴水に重大な課題をもたらすことになる。

ここの水景はこれまでの水景と較べ大がかりで、独創的な、凝ったものがちりばめられている。主なものを紹介すると

#### ○楕円噴水 (卵形噴水)

アニエネ川から導水された水が最初に姿を現す場所で、庭園内で最初につくられた噴水である。大きな楕円形の池を半円形の回廊が囲み、壁のアーチ柱部分に設置された10体の妖精像から噴水が池に回廊の中に注いでいる。これらの像や壁の彫刻はいまや完全に植物によって覆われてしまった。回廊の各アーチの下には扇形の噴水がある

が、取材した時噴水は出ていなかった。

回廊にはグロット (洞窟 grotto) がある。グロットは中に噴水があって、夏涼んだり談笑したりする場所を提供するためのものでこの庭園で多用されている。ヴェルサイユでも初期の庭園に見られた。

回廊の上は歩廊になって、池側の手すりの上には噴水付きの鉢が並びそこから水が池に落ちている。回廊の向こうの人工の小山は岩の割れ目から水が流れ出すようになっていて、斜面には3体の大きな像があり、各々の像の下から滝流れが流れ出し、その流れは集まって回廊中央の半円形のせり出しから滝となって池に落ちている。これまで全く見られなかった複雑な作りになっている。

#### ○百の噴水

卵形噴水広場を出たところの通路斜面に庭園いっぱい、長さ130mにわたってずらっと並んでいる。3列の水路によって水が供給され、上の段は扇形と線状の噴水が交互に噴き出ていて、かつては22のポートと72のお椀が飾られ、エステ家の象徴である鷹の彫



刻が並んでいのたとされが、鷹し、か、見、え、な  
 中た。のの噴水、の再水、の段、の路、に、水、か、つ、ら、ま、下、の、ら、ご、海、れ  
 段で吹水に、の噴、の最、の段、の擬、態、化、し、路、の、態、を、入、は、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 口噴流に、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 百の噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 園の噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 幅の噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 いっぱいの噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 広がっている噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ



百の噴水  
庭園幅いっぱい広がっている。

これだけ固執したのは何故だろうか。



一写真一 龍の噴水 est10387-2  
主噴水のほかに壁に並んだ花瓶からの噴水、

龍の噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 宮殿の噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 な噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 変化する噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 さられる噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 中央の噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 置かれた噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 さられた噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 流れていく噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ  
 フェンスの噴水、の噴、の中、の段、の壁、を、全、に、見、て、ら、た、え、と、魚、覆、わ



ネプチューンの噴水

当初は滝流れだけで、噴水は後世に設置された。

しい景観となった。噴水は5段で構成され、最上段は斜面に沿って落ちる落差の大きな滝で、背後が通路になっ、第2段は幅の広い滝、第3段は上段の滝の2段目と落ち、高揚程の噴水、第4段は左右に並ぶ半円形の水盤の全周から滝が落ち、高揚程の噴水、第5段は幅の広い滝が2段続く。噴水をあちこちに見ることができ、展望スペースも設けられている。

### ○ランテ荘

ランテ荘は、イタリア・ローマの北 90km に位置する都市ヴィテルボの郊外に作られたヴィラである。ランテ荘は当時の司教たちが利用する、狩場の雨宿り小屋として建設され







ハドリアヌスの別荘カノープスの池のようであった。

ここでは宮殿のまわりを浅い水路がめぐらされている。直線的な浅い構造で所々に四角い広い水面がある。訪問したときは残念ながらこの水路はからでせせらぎはなかったが、パサルガダエの流れを受け継いでいるように感じた。

### 10, ヴォー・ル・ヴィコント庭園 17世紀

17世紀中頃、ルイ14世のもと財務長官であったニコラ・フーケは財政運営に優れ、多くの知識人と親交があり、結婚1年後に亡くなった妻の残した遺産をもとに、5平方キロの土地を購入し、5年かけてかつてない規模の素晴らしい城館の建設に没頭した。当時新進気鋭であった、建築家のルイ・ル・ヴォー、画家のシャルル・ル・ブランと造園家のア



ヴォー・ル・ヴィコント城館



城館上階からみた庭園

ンドレ・ル・ノートルに造営を任せた。

ヴォー・ル・ヴィコントの庭園は、玄関からの、少し西にずれるが南北の軸にきれいに刈り込んだ毛氈花壇、噴水池、大運河、うに一直線の軸線に並び、それが遙か彼方まで。運河は幅は35m、長さ900mあり、



運河

運河対岸の構造物の裏に噴水池がある

クレスの彫像がある。

地図では芝地は狭くなるがあと500m続き、その南も敷地が広がり、運河から敷地の南端まで1.7kmもある。今でも規模の大きさに感心するので、当時は驚嘆すべき規模、内容であったと考えられる。

城館の完成が近づき、フーケは大園遊会を開かざるをえなくなり、1661年8月17日、ルイ14世を含む6千人が招待され、噴水や大運河に心をうたれ、晩には庭園が数千の灯りで飾られ、花火が打ち上げられ、

ルイ14世にとっては財務長官がこのように

奥の芝地にある点がヘラクレスの像で、そこまで1km

芝地が配置されていた。イタリア式庭園のよ



宮殿北側 濠が城館を囲んでいる。付属の建物も左右対称。正門も軸線上に。

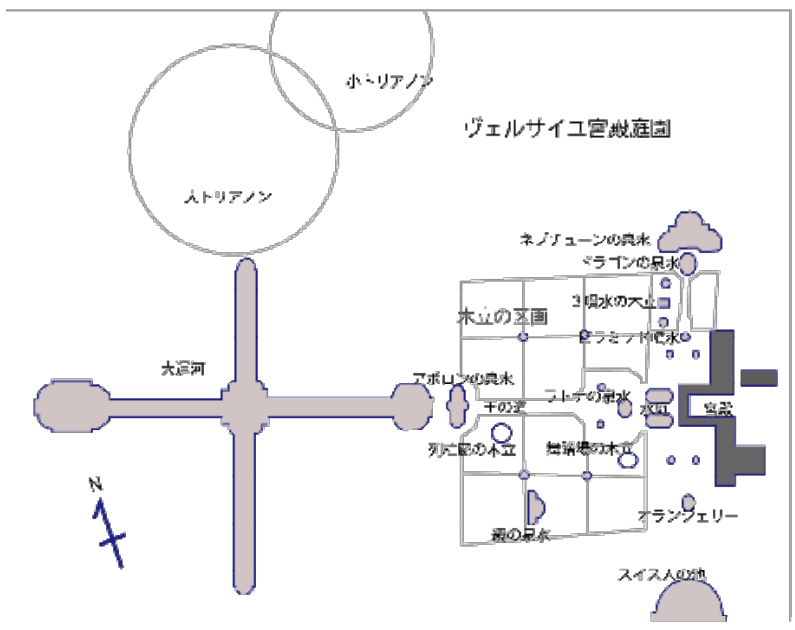
客人は皆驚嘆した。うな豪華な城館を造営したことがショックだったと思われる。園遊会からすぐ、9月5日にフーケは公金横領の容疑で逮捕され、裁判

にかけられ有罪となり、二度と城館に戻ることはなかった。心血を注いで見事にできあがった家から突然連れ出され、牢獄に捕らわれて帰ることができなかった無念さは大変なものであったろう。

ヴォー・ル・ヴィコントではこの園遊会を偲んで、夏期の毎土曜日、夜間にも開園され、2千本の蠟燭が庭内に灯され、花火が打ち上げられる。

11世紀、ヴェルサイユ宮殿の庭園は、ルイ14世の心算で造られた。その規模は、17世紀のフランスで最も大きなもので、長さ1.5km、幅0.5kmに達する。この庭園は、宮殿の南側にあり、大運河が東西に走り、大運河の南側に宮殿が建ち、大運河の北側に宮殿の南庭園が広がる。この庭園は、宮殿の南側にあり、大運河が東西に走り、大運河の南側に宮殿が建ち、大運河の北側に宮殿の南庭園が広がる。

17世紀、威信にかけて、ヴォー・ル・ヴィコントよりも素晴らしい



ヴェルサイユ宮殿庭園図

庭園は非常に広い。宮殿の南庭園は、長さ1.5km、幅0.5kmに達する。この庭園は、宮殿の南側にあり、大運河が東西に走り、大運河の南側に宮殿が建ち、大運河の北側に宮殿の南庭園が広がる。

2倍近い長い距離を歩かなければならない。園内ではレンガ敷の道が利用された。現在の宮殿敷地広さは9平方キロメートル、かつては14平方キロメートルもあった。この庭園は、宮殿の南側にあり、大運河が東西に走り、大運河の南側に宮殿が建ち、大運河の北側に宮殿の南庭園が広がる。

○宮殿の軸線

宮殿の軸線は、宮殿の南庭園の中心を軸として、東西に伸びる。この軸線は、宮殿の南庭園の中心を軸として、東西に伸びる。この軸線は、宮殿の南庭園の中心を軸として、東西に伸びる。

軸線は、宮殿の南庭園の中心を軸として、東西に伸びる。この軸線は、宮殿の南庭園の中心を軸として、東西に伸びる。この軸線は、宮殿の南庭園の中心を軸として、東西に伸びる。

○水庭

宮殿の前庭には、水庭が設けられている。この水庭は、宮殿の前庭には、水庭が設けられている。この水庭は、宮殿の前庭には、水庭が設けられている。

宮殿の前庭には、水庭が設けられている。この水庭は、宮殿の前庭には、水庭が設けられている。この水庭は、宮殿の前庭には、水庭が設けられている。

○ラトナの泉

水庭の西側に、ラトナの泉がある。この泉は、水庭の西側に、ラトナの泉がある。この泉は、水庭の西側に、ラトナの泉がある。

水庭の西側に、ラトナの泉がある。この泉は、水庭の西側に、ラトナの泉がある。この泉は、水庭の西側に、ラトナの泉がある。



アナ)が、池の持ち主の農民に水を飲みたいと頼んで拒否され、ゼウスが怒って農民をカエルに変えてしまったというギリシャ神話を題材にしているが、フロンドの乱鎮圧の意味も込められている。1687年に今の形が完成。



水庭

軸を挟んで二つ並んでいる。池の周りに彫刻



ラトナの泉

噴水はノズルも多く、最も豪華に見えるが、一段下がった所にあるので、宮殿から

は見えない。ラトナの泉の回りは広い花壇になっていて、花壇から西に緩い勾配の芝生で覆われた坂が約400mの長さでアポロンの泉水まで続いている。王の道と呼ばれ、道の両側には12の彫刻と12の花瓶が並んでいる。

王の道を挟んで南北には Bosquet という生け垣にまれたいくつもの区画が沢山ある。東西方向に3列、南北方向に2列ずつ4列で合計12の木立の区画があり、区画のへりになっていて道の交点にも噴水がある。各区画の中は様々な噴水などを持つ庭園になっている。

○アポロンの泉水

王の道の西にある。太陽王として自分をアポロンに見立てたルイ14世であるので、庭園の中心的な存在である。1671年に完成。

太陽神アポロンが地上を照らすために4頭立ての戦車を駆って空を飛ぶ彫刻が中心にあり、その回りには海の嵐を制御する4人のトリトンと4匹の海獣。その後には3本の高い噴水があり、宮殿から見たときの目印のよう



アポロンの泉水

後に3本の高い噴水があり、宮殿からも位置を容易に確認できる。



舞踏会の区画

滝流れが広いので相当の水量

に思える。

宮殿からは水庭の遠く向こうにアポロンの泉水、そして大運河が見渡せる。

○舞踏場の区画

ラトナの泉のすぐ南の区画にある。ローマの円形劇場を模し、大理石やマダガスカルから運ばれた貝殻で作られたすり鉢状の傾斜の八つの段から多数の滝流れが流れ、下からは噴水が噴きだしていて相当の水量になる。滝流れ反対側の芝生斜面は楽団の演奏が行われるところ。ここの噴水は1683年にできあがり、ル・ノートルの最後の作品と言われている。

○列柱廊の区画

王の道の南、アポロンの泉水のすぐそばにある。円形の列柱廊の下に32の噴水付きの

大理石水盤が置かれている。1679年。

○ピラミッドの噴水

水庭の北は北向きの通路を挟んで対称形



列柱廊の区画

噴水付きの廊下がぐるりと取り囲む



ピラミッドの噴水

宮殿近く

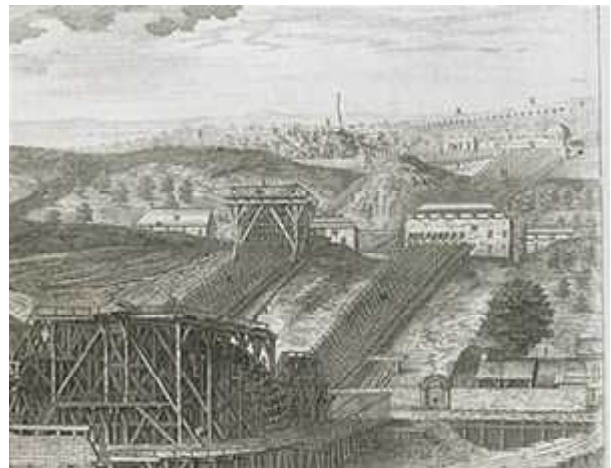
で並んだ噴水が一つずつある花壇になっていて、その先にピラミッドの噴水がある。ルイ14世の居室から見えるところであったので、注文も多かったと思われる。その北には、水の散歩道があり、ピラミッドの噴水から北にドラゴンの噴水まで降りていく。

○水源

ヴェルサイユは比較的低地にあったので当初は近くにつくられた池や川の堰から馬の動力で動かす金属ポンプで高架水槽に送水したり、大運河の水を風車によって池に戻すなど、様々な水源確保方策が実施された。しかし庭園の使用する水量がどんどん増えたため付近の水源では間に合わなくなった。ルイ14世が客人を案内するとき、回った場所で噴水の上に水をよせようとして残る専門の技術者もいた。英国哲学者のジョン・ロックが1677年に見学しようとして残っている。「沢山の変化する噴水があつて書ききれない。王は多額の経費がかかっているがこれに満足して、みずから改造を指示したりしている。貯水池の水を噴水に送るのに10基の風車の他に120頭の馬がいて、そのうち40頭が常時働いている」

抜本的な水源確保方策が求められ、まず宮殿の7km北を流れているセーヌ川が対象となつた。問題は宮殿より百メートルあまり低いことと、途中の丘が導水の障碍となることであつた。

セーヌ川から揚水するポンプは、150m揚水能力のポンプを並べ、ポンプは221台が繋がつた。この大きな施設はロシアのピートル大帝など多くの人が参観し、シスレーなど有名画家の絵でも見るこゝろができた。1685年により設計能力の半分の日量3200mしか水を送れず、結局ヴェルサイユには送水されずセーヌ川近くの別の宮殿に送られた。



マルリの用水施設

出典 Histoire des Eaux de Versailles et des environs

<http://laurentour7.canalblog.com/>

次の水源確保方策はセーヌ川支流のウール川からの導水であつた。ただし、直線距離で75kmもある上、二つの谷を横断するという大きな難関があつた。

工事には技能作業員の他軍隊も動員され1万人から最大3.7万人にもなり、日曜労働もある重労働が課され、病院送りとなる兵士も続出し、熱病も蔓延した。

1688年の時点ではマンテノン水道橋などを残してできあがってきていた。マンテノンの水道橋は大聖堂で有名なシャルトル付近のウール川の谷を横断する長さ1.3km以上、3段の高さ60mという大きなものであつた。

しかし、ルイ14世の膨張主義がもとではじまった、プファルツ継承戦争が欧州全体を巻き込む大規模で長期におよびフランスの敗北で1697年に東の間の平和が訪れたと



き、導水事業に向ける資金もなくなって、結局廃棄されることになり、夢は終わってしま  
った。ウール川導水事業の痕跡はマンテノンのウール川に水路橋最下段のアーチの一部が  
残され、見ることができる。

**12. ペテルゴフ（夏の離宮 サンクトペテルブルグ） 18世紀**

ルイ14世が力を入れた壮大なヴェルサイユ宮殿庭園は欧州各地に大きな影響を与えた  
ようで、筆者が訪れただけでもウィーンのヴェルベデーレ宮殿、シェーンブルン宮殿、ミ  
ュンヘンのニンフェンブルグ城庭園、ポツダムのサンスーシ宮殿などがある。



ヴェルベデーレ宮殿の庭園  
緩い勾配の地形に池が並ぶ。



滝流れ ヴェルベデーレ宮殿  
改装したばかりなのか池は真っ白で水も

また、荘厳な噴水を持つサンクトペテルブルグの夏の離宮ペテルゴフがある。段丘の上にある。近代的な庭園と比べると、ペテルゴフの庭園は、上段の丘に建てられた宮殿を挟んで下の庭園と等しい規模の噴水庭園である。大噴水のあるところには北緯60度の長いカムチャツカの根くら本で、一番気温が高い7月の平均気温が18度と東京の5月程度。一年の大半が寒いので、肌寒いときに一層寒さを感じることが多い。噴水を何故つくったのか気になる場所である。

1710年にサンクトペテルブルグ郊外の海岸にピョートル大帝が館を建てたことから始まる。段丘が海に迫っているこの地形に注目した大帝はここに水を活かした宮殿を構想し、建設にはフランス、イタリアをはじめ世界中から優秀な技術者が集められた。大帝自身も積極的に関与し、指図し、大帝の手書きの設計図面が十数枚も残っているとのこと。

大帝は1697年に250名の使節団をヨーロッパに長期派遣したが、自分自身も偽名を使って一員となった。アムステルダムでは造船技術の習得に専念し、東インド会社の造船所で船大工として働いた。また病院、博物館なども視察見学した。一国の長でありながら、職人のように手を動かすのが好きで、いろいろな工芸作品もつくったようで、夏の離宮を建設するにも、具体的ないろいろな思いがあったと思われる。ヴェルサイユ宮殿庭園にも訪れていて、噴水に圧力のある大量の水を確保するのに苦労していたことも理解していたのだろう。段丘の地形を利用して段丘の下に噴水を設置すれば、多額の経費をかけて水路橋を作る必要がない



ポツダムのサンスーシ宮殿  
斜面にはブドウの並木が並ぶ



宮殿から伸びる運河 peterg894-2  
運河は海まで続いている



大帝は最後まで変わっていて、座礁した船の救出作業で真冬の海に入ってから体調を崩して重い膀胱炎となり、それがもとで1725年1月末に52才で死去。

宮殿と庭園の一応の完成式典が行われたのが1723年で、大帝の死のわずか2年前であった。宮殿は高さ16mの段丘の上に建ち、北の海に向いている宮殿正面には斜面を利用した滝流れと噴水があり、約600m先の海から運河が宮殿の前までできていて、運河の脇にも噴水が並んでいる。下の庭園は運河を挟んで海沿いに東と西に各々約1km内外の広がっていてその幅は東は600m、西は400m。庭園の中あちこちに小さな宮殿や噴水が配置されている。上の庭園は宮殿の南に面し、幅300m、奥行き400m程度と下の庭園に比べて規模は小さいが整然とした幾何学庭園になっている。庭園のすぐ南には上の庭園より広いオリギン池がある。



運河から宮殿をのぞむ  
ペテルゴフ宮殿は段丘の上に。



大滝とサムソンの噴水

圧巻な光景を見せる大滝（Grand Cascade）は段丘を利用して、滝流れと噴水群が宮殿を飾っている。滝流れは中央の空間を挟んで2対あり、7段で、金箔の像が並び、滝流れの各段の両側から噴水が出ている。噴水は噴き出してくる高さは違うが、頂点は揃っている。左右の滝流れの間の空間には真ん中に噴水があり、彫像やレリーフが置かれている。滝流れ前の円形池の中心にはひときわ大きな噴水がある。サムソンの噴水で、ライオンの口を引き裂く金色のサムソン像とライオンの口から一段高く上がる一本の噴水を中心にして回りから放射状に噴水が出ている。当初の設計ではサムソン像は考えられていなくて、賓客は海から運河を船で入ってきて、その際、運河両脇の噴水の列に囲まれつつ、正面に位置する段丘の滝流れとその上に建つ宮殿の偉容を見せられながら、宮殿の前の円形池で下船するというように設計されていた。最初のサムソン像はスウェーデン戦勝利を記念して1734年につくられた。ピョートル大帝の死後大きな変更が行われたことになる。勝利の日が「聖サムソン」の日だったこと、またスウェーデン国旗にライオンが描かれているのでスウェーデンを意味するとしてサムソン像が選ばれている。

夏の離宮にある多数の噴水はポンプを使わず、上流からの水圧だけで上がっている。こ



ローマの噴水  
道路を挟んで同じものが2個



樅の木噴水  
木の形をして、枝の至る所から噴水が

れを担当したのがロシア人技師のワシリー・トゥヴォルコフで、最初の噴水が上がったのが1721年であった。サムソン噴水の高さは20mと段丘よりも高く、噴水の水は上の庭園より3km上流の高い貯水池からパイプで引いている。段丘のおかげで低圧で済むことになる。こういう工夫を見ると、動力ポンプと耐圧管のありがたさがわかる。他にも貯水池があり、他の噴水に水を送っている。また貯水池の水源は22kmも離れたところに行く



つもあるようである。

離宮の噴水は一回使いだけでフィンランド湾に流れる。水使用量はざっと見て毎秒1トンくらいに思う。農耕も難しい寒冷地なのでこういう贅沢な水の利用ができるのであろうか。

噴水は真っ白で普通と変わらないが池や流れる水をよく見ると少し茶色がかった。寒冷地特有の植物が完全に分解されず、有機物が少し残っていることによる。

宮殿庭園は広く、園内をめぐりながらけっこう大きな噴水や不規則に出て来た人に水をかけるいたずら噴水や木の枝から出る噴水などを見物するようになっている。

### 13. 英国式風景庭園 18世紀

一方、英国では自然の景観美を追求した風景庭園の流れが起こっていた。

17世紀に地中海風景や古代風建築を描いた絵画がイギリス貴族の間で流行し、邸宅の壁に飾られることとなった。さらに壁の絵だけでなく窓外の現実風景にこれら絵画のような理想的風景をつくり上げることが望まれるようになった。

この流れを受け、18世紀、庭園の中に自然風景の美しさを入れようとする動きが現れた。さらにこうした思想をジャーナリストなどの文筆家が主導し、理念の形成に寄与した。この時代に最初に幾何学庭園の批判をしているのは、アントニー・アシュリー・クーパー（第3代シャフツベリ伯爵）とされる。クーパーは1709年に記した『モラリストたち』において、あるがままの自然を賛美し、これを幾何学庭園の美学と正反対のものとして対比し、人工美の庭園よりも大自然が優美であるとした。

造園家として有名なのがランスロット・『通称ケイパビリティ』・ブラウン、(1716年 - 1783年)で、ブレナム宮殿を始め、チャッツワース・ハウス、ハイクレア・カースルなど、ブラウンが設計していて、手がけた庭園の数は170を超える。

#### ○ブレナム宮殿

コッツウォルズ地方の東に位置し、オックスフォードの西約13kmのウッドストックにある大規模な宮殿である。王室所有でないのが不思議なほど壮大であった。スペイン継承戦争中の1704年8月にフランス軍をドナウ河畔のブレナムという村で破ったことを記念して、アン女王が初代マールバラ公爵に贈ったもの。初代マールバラ公爵の名前はジョン・チャーチルといい、ウィンストン・チャーチル首相の先祖で、スペイン継承戦争では総司令官を務めていた。

チャーチルもこの宮殿で生まれ育った。驚くべきはその広さで8.4平方キロメートルもあって、外苑と北の丸公園を含めた皇居の4倍にもなる。宮殿建物は中央棟とその両側に北翼、南翼の中庭を持つ3つの建物からなり、中央棟を中心に左右対称に並んでいる。玄関は北翼にあって、見学客もそこから出入りする。中央棟は北西正面に中庭があり、1kmも離れた遠くに勝利の塔を望んでいて、反対側の南東面は広大な芝生の原となっている。中央棟と北西にある勝利の



水のテラスの噴水庭園



本館から勝利の塔方向の眺め

塔を結ぶ線(330度)が宮殿の軸線となっている。この軸線の南東向方(150度)の延長線上にはパリがあった。勝利の塔から北西方向に庭園は続き、両側に2列ずつの低い並木が囲む80m幅の牧場になっている芝地が本館から3.2kmまでも伸びている。

当初宮殿と庭園はヴァンプラー卿が担当しフランス風のバロック様式でつくられた。

初代マールボロ公爵夫人はアン女王とは仲の良い幼なじみで、この関係から女王が壮大な宮殿をプレゼントしたらしい。ただ公爵夫人は暮らしやすい普通の家に住みたい願望が強かったようである。その後公爵夫人は女王と関係が悪くなってしまって国のお金が入らなくなってしまった。それだけでなくアン女王が亡くなるまで国外に追い出されていた。

4代目の侯爵になり、1760年代に“ケイパビリティ”ブラウンとウィリアムチェンバーに庭園の改造をさせた。このとき英国式風景庭園の流れが持ち込まれ、宮殿内を流れるクライム川を堰き止めて広大な池がつけられた。これにより宮殿から勝利の塔に行く4車線道路くらいの幅のある広い道路の中間にあるヴァンプラーの大橋が少し水没してしまった。

橋は訪れたとき午後の日を浴びて見事な景観を提供していて、撮った写真はこのときのイギリスの旅行で一番いいものであった。橋の北東(右)の池には中の島があり、風景式庭園の見事な眺めをつくっている。

ところがその後 19 世紀に本館西側に噴水のあるフランス庭園の水のテラスがつけられた。フランスの造園家が担当し、つけられた水の特ラスは2段になっていて、上段は宮殿建物に隣接し、いくつもの池や噴水、また4隅に彫像など、曲線で構成され精巧につくられている典型的な西洋幾何学庭園である。下段は正方形の池が配置されているが少しデザインが荒い。

ブレナム宮殿庭園は面積的には風景庭園の比率が高いが、本館の南東側それから本館の南東方向(125度)500mのところにある別邸南の庭園も幾何学庭園になっていて、感じからすると風景庭園の割合が半分くらいの印象となる。

“ケーパビリテイ”ブラウンが関わったとされるチャッツワース・ハウスはマンチェスターの



軸線の東の池  
島のある風景庭園



ヴァンプラーの大橋  
本館から勝利の塔への道の途中

南東60kmのところにある。ここも当初の幾何学庭園を第4代デヴォンシャー公爵が“ケーパビリテイ”ブラウンに依頼し、風景式庭園に改造したとされる。

どんな庭園なのかグーグル地図で調べてみた。航空写真に加え、道路やいろいろな所から360度見渡せる、あたかもそこにいるような画像が得られるので非常にありがたい。将来、自分でその場の写真まで撮れるようになるだろう。

チャッツワース・ハウスでは本館から南へ175mほど続く角型の芝地があり、その中央に円形噴水池を持つ。その先には延長約280m、幅30mの方形の池があり、池には本館寄りに噴水が一つある幾何学庭園の趣である。また本館から東に延びる160mの道路先にある長さ約170m幅7mちよつとの直線の滝流れがあり、また本館西側は芝地が主な幾何学庭園と、本館の周りは幾何学庭園が取り囲んでいる。風景庭園は本館から離れた東側の林の地域で、その趣は少ないように感じる。

ハイクレア・カースルを航空写真で見ると園路がカーブして風景庭園の感じであるが水辺がなく、また一部幾何学庭園がある。

以上、“ケーパビリテイ”ブラウンが取り組んだ有名庭園は幾何学庭園がけっこう大きな存在になっている。これは改造が多いのと、幾何学的な建物のすぐまわりに風景庭園を持ち込むことが難しかったらうなどのことで幾何学庭園を相当残さざるをえなかったような感じである。

### ○ストウ庭園 Stowe 18世紀

訪問したことはないが英国式風景庭園の感じが強い庭園としてストウ庭園とストウヘッド庭園の二つがあげられる。

ストウ庭園はロンドン北西80kmにあり、初代コーバム卿、R.テンプルが17世紀の幾何学庭園を風景式庭園に改造したもの。造園はチャールズ・ブリッジマン、後継者のウィリアム・ケント、“ケーパビリテイ”ブラウンなどが担当した。

現在学校になっている本館から南155度の軸線上に、幅100mほどの芝地が400m先のオクタゴン湖(大きさから池である)まで続き、芝地の両側が木立になっている。東側の木立の中は川が流れ、流れ込む湖と一緒に、風景庭園が広がっている。川や湖の所々には古代ローマ風の橋、屋根付き橋、建造物(2階建てなど結構大きいもの)がある。

一方、本館から南の軸線上、湖を超えて1.3kmのところ、本館に対峙するような門のような構造物があり、また0.6kmの湖を渡った岸の両側に小さな構造物を左右対称に置いて、遠くまで見通すというヴェルサイユのようなデザインも取り入れていて、それほど目立たないが、深みが出ている。改造前からあって残したのであろう。

### ○ストウヘッド庭園 Stourhead 18世紀

ロンドンの西方100kmコツウォルズ地域の南、1717年に裕福な銀行家であったHenry Hoareが荘園を購入し、代々の後継者が受け継いできた。Henry Hoare II (1705-1785)は銀行家であるとともに造園設計者で、1741年頃から庭園









### ○ジュネーブの噴水 レマン湖

レマン湖は、スイスとフランスにまたがる、中央ヨーロッパで2番目に大きい三日月型の湖。面積580平方キロ。琵琶湖670平方キロより少し小さいがずっと深い。ジュネーブはその西端、ローヌ川への流れ口にある。港の突堤が南岸から延びていて噴水のすぐ近くまで行くことができる。140 mもの高さまで水を噴き上げるジュネーブのシンボルで、遠くを航行する船からも見える。



レマン湖の噴水 gene10025-2  
突堤伝いで噴水のすぐ近くまで行ける

### ○マンハイムの給水塔広場

ドイツマンハイム中心市街地に古い給水塔があり、その回りが噴水公園になっている。噴水公園の向こうには緑地を持つ道路がまっすぐ続き、公園脇には道路を挟んで左右対称の建物がある。池の先の軸線上に植樹帯のある道路が続き、左右対称の建物が並んでいる。給水塔



給水塔と噴水



給水塔下から

は1889年に完成し、2000年まで使われていた。この給水塔設計はコンペだったので、どうも給水塔も設計段階から街のモニュメント的な位置づけがあったようである。

### ○アルタの親水公園



アルタの親水公園噴水



アルタの親水公園せせらぎ

人口1万人以上の都市として世界最北になる。

ショッピングモールの近く、児童遊具の横にせせらぎや噴水のある公園があった。最高気温が13度を超える期間が3ヶ月もなく、11月から3月まで最高気温が0度を下回る寒い地域で、北緯47度の樺太くらいのところに相当し、こんなところにも親水公園があるものだと感心する。

日本でも水辺を配した広場など増えているがそれと変わらないデザイン。

## ○ドバイの噴水池

欧州ではないが世界一の規模なので紹介させていただく。大規模なモール複合体のなか  
にあり、池は縦約550m、横650m、高さ12ヘルターもある。ああって中の島もある。プールの  
よと色、清透明な池のまわりをショッピングモール、高さ世界一のバージェ・ハリアー、高層青  
のこ透明な湧水など、塩素臭はしてはなかつたし、壁にも水底にも藻はなかつた。池  
えが含まれていることが多い。水中にほんのわずかな栄養塩類、無機質など生存に使える微量物質  
がここは水道水源は海水淡水化プラントから供給され、逆浸透膜処理した下水処理水は



ドバイモールの噴水池  
水がきれいなので噴水設備が見える。左  
の建物は世界一高いブルジュ・ハリファビル



夜の噴水 ドバイモール  
上水道に使わず池などの環境用水に供給している  
ということであった。これからすると池の水は  
専用配管で導水されていることになる。

いかにも贅沢な水システムを運営しているように見える。  
噴水施設は池の中央にあり、ノズルは大小5個の円形と折り返しのある曲線に設置され、総延長  
は275m。噴水の設計はアメリカ・ロサンゼルス社のWETデザイン社で、この会社は世界の有名な噴水  
をデザインしている。  
コンピュータ制御により6600個の照明と25のカラープロジェクターが噴水を飾る。噴水は主に夜間  
運転され、ダンスができ、強力なものは高さ150mまで上がり、最大83m<sup>3</sup>の水を（毎秒と思われる  
表示が多いがはっきりしない）噴出できるという。霧の発生装置も運転されていた。  
噴水はジャズ風、アラビア風など多数のテーマ音楽に乗せて芸術的に演出され、1回の  
噴水の上演は5分で夜間は30分間隔で運転されるが、規模が大きすぎると混雑でよく見えない。  
噴水池の周りでは只で見ることができ、規模が大きすぎると混雑でよく見えない。  
池を取り囲むホテルやレストランなどから見るのがいいように設計されているよう。

## 16. 終わりに

西洋庭園の水景は中東からローマ帝国に広がり、ルネッサンス時代になってイタリアから  
欧州全体に発展してきたように見える。近世になって流れを引っ張った代表的存在はアル  
ハンブラ宮殿庭園、エステ家の別荘庭園、ヴォー・ル・ヴィコント宮殿庭園、ストウ庭  
園になろうか。  
庭園造営に情熱を傾けたのに、生存中に完成した姿を見られなかったなど寂しい話も絡  
んでいる。先人達の残してくれたこれらの名園を見ることができるとは幸せなことであ  
る。  
残念なこともあり、ヴェルサイユ宮殿庭園の水不足では、多大な財力があつたのに、フ  
ランスのルイ14世の拡張主義による周辺諸国との戦争が長く続き、国が疲弊して、導水  
事業が破棄されてしまった。17世紀からずっと続いた欧州を巻き込む戦争で、富を生む  
植民地獲得競争もよくすすまじくできたのか不思議であるが、庭園のような地味な文化遺  
産の方にあまりお金がまわらなかったのは残念である。当時社会が一番安定していた日本  
では様々な文化が花開いて庭園も大規模なものはないが風情のあるものがつくられた。  
夏期に水を大量に必要とする米作のために、大量の水を使う庭園は難しかったろうし、  
平地が少ないという事情もあった。  
日本庭園に珍しい噴水は兼六園にあり、金沢城内の二ノ丸に水を引くため試作された  
とされ噴水が上がったのが1861年。  
自然の滝流れはともかく、噴水は自然界に存在するものでないため、自然の形を尊重す  
る日本庭園や英国式風景庭園にはあまり合わないとなつて少ないと思われるが、幾何学的  
でなく、ランダムに配置などすればいい景観を提供してくれるとも思われる。中心的な池  
に噴水のある新しい形の水景庭園ができることを期待するものである。